

2017 年度 活動報告書

平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで

1、2017 年度活動報告

<福島県の概要>

震災から丸 7 年が経過しました。キュウリなど野菜の基幹作物の価格は持ち直しつつあるものの、米をはじめ、果樹、畜産の価格は全国平均を下回る状況が続いています。一方で、全国新酒鑑評会の金賞受賞数が県別で福島県が 5 年連続一位を獲得、福島県全体の学校給食の地場産食材使用率が震災前とほぼ同じ水準の 35.6%まで回復、県内各地ではファーマーズマーケットが展開され地産地消が戻りつつあるなど、明るい話題もありました。

浜通りでは、春に飯舘村、浪江町、富岡町のそれぞれ一部、川俣町山木屋地区が避難解除され、復興に向かって全力で進んでいます。しかし帰還者、さらに農業再開者は一部にとどまり、地域コミュニティがあってこそ成り立つ農業の分野においては、まだ復興の途上であると言えます。

<当会の取り組み>

当会は県内を中心に有機農家と共に歩む活動に軸足を置き、稲作、野菜、果樹、畜産など各分野の技術交流会の開催、また生産者の伝える力を伸ばすための先進地視察やセミナーを実施しました。

消費者と交流には、藍の学校やモニタリングツアーを行い、農家との交流や福島県の農業の現状を見てもらう機会を増やすことに努めました。また子育て世代をターゲットに有機農業シンポジウムを開催、県内のファーマーズマーケットを取り上げた小冊子「はじマル」の発行。さらに昨年に引き続き首都圏や県内でみそづくり、漬物を体験するスローフード講習会などを開催しました。さらに東京で生産者と消費者、福島を思う人どうしがつながる場として東京交流会を開催しました。

販売事業では阿武松部屋への農産物の販売、せたがやふるさと区民まつりや荒川区のイベントなどに参加しました。また昨年に引き続き「浜通り応援隊」として県内各地のマルシェに出店し、浜通りの農産物の販売を行いました。

日本財団 NewDay 基金の支援を受けて整備する「体験交流施設」については、南相馬市鹿島区の NPO 法人あさがおの協力を得て整備することを進めていましたが、協力が難しい旨の連絡が 2017 年 12 月末にあり、新たな候補地を探すのが困難と判断して日本財団と協議の上、整備費 2480 万円は返金することで手続きに入り、ほぼ了承を得ています。

2、事業報告

<技術向上普及事業>

○技術交流会

- ・稲作（中通り）：石川町、郡山市の石澤智雄さん、成田守会員見学。参加者 13 名
果樹：会津若松市の会津身不知柿の渋川吉美さん、柳津町のブルーベリーの金子勝之会員の見学。参加者 6 名
- ・野菜：郡山市の佐藤喜一さん、田村市船引町の大河原伸さん、日本エゴマの会ふくしまを見学。参加者 18 名
- ・稲作（会津）：会津若松市の長尾好章さん、喜多方市熱塩加納町の大竹久雄さん、猪苗代町の土屋直史さん見学。参加者 5 名
- ・稲作（浜通り）：いわき市の安島美光会員、南相馬氏小高区の根本洗一会員、相馬市の渡辺正行さん、反畑（たんばた）能（あとう）さんを見学。参加者 12 名
- ・畜産：田村市船引町のアニマルフォレスト吉田睦美さんのヤギ、羊、うさぎ、鶏、浪江町の NPO 法人 Jin の川村博会員のうさぎ、相馬市の菊地将兵会員の鶏を見学。
- ・漬物名人から学ぶ加工のコツ：会津坂下町の慶徳敬子会員の所で開催。参加者 4 名。

○マーケティング講習会

先進地視察で石川県能美市の西田栄喜さんの農場を訪問（9 月）、そして 1 月には講演及びワークショップのために来福してもらった。9 月の参加者は 19 名、1 月の参加者は 24 名。

<消費者交流・文化伝承事業>

○有機農業映画祭&シンポジウム「畑からいつもの食事を考えよう」

- ・2017 年 12 月 17 日（日） JA 福島ビル 10 階大会議室
- ・参加者 120 名 出店者 9 店舗

講演は栃木県那須烏山市の診療所の医師で、自然派医師として子育て世代に支持が厚い本間真二郎先生に講演を依頼。腸内細菌や発酵食品、さらにご自身で実践されている田畑のことなどを話してもらった。

映画は美大生がゼミ活動を通じて食や命について体験する「カレーライスを一から作る」を上映した。

シンポジウムと映画上映の間には生産者によるミニマルシェを開催し、生産者と消費者が時間や思いを共有できる場をつくった。

○スローフード講習会

①南会津の郷土料理と納豆づくり

- ・2017 年 11 月 25 日（土） 国立市 まんまる食堂
- ・参加者 26 名 有機ネット事務局高木 理事馬場夫妻 計 3 名出席

南会津の郷土料理を食べながら、藁を使った筒納豆作り体験を行った。会員の野菜や農産物の販売を実施

②みそ造りとおむすびの会

- ・2018年 2月11日(日) 国立市 くにたち夢ファーム jikka
- ・参加者 21名 理事馬場 会員塩田夫妻出席
ランチを食べながら味噌おむすびの作り方や味噌作りの体験を行った。馬場の玄米麴と塩田夫妻のお米の販売を実施

③草堆肥作り：

- ・2017年 11月4日(日) 南会津町 馬場農園にて。馬場浩会員を講師に、草堆肥作りの方法と草堆肥を使った畑の管理を学んだ。参加者5名。

④豆腐作り体験：

- ・2018年 2月12日(月) 二本松市岳下住民センターにて。豆腐屋おはら・小原直樹会員の指導の下、充填豆腐とザル豆腐作りを体験した。参加者5名。

⑤味噌仕込みワークショップ：

- ・2018年 3月25日(日) 二本松市岳下住民センターにて。岩井清会員から材料提供を受けて、参加者と一緒に味噌を仕込んだ。参加者10名。

○浜通りの農家を巡るスタディーツアー

第1回 2017年9/23(土)～24(日) 参加者7名

浪江町のNPO法人Jin川村博会員、南相馬市 小高区、根本洗一会員の田畑、農家民宿森のふるさとにて藍の収穫と生葉染体験、「報徳庵(はらがま朝市)」、相馬市・大野村農園等を訪問。

第2回 2018年2/17(土)～18(日) 参加者7名

富岡町の米農家・渡辺伸さん、檜葉町の米とゆず農家・松本広行さん、地域内外の若者が営むシェアスペース「木戸の交民家」、広野町の「新妻有機農園」新妻良平さん、広野町の「二つ沼直売所」、「大熊町モーモーファーム」谷 咲月(さつき)さん等を訪問。

○農と食の学校「藍の学校」(南相馬市鹿島区)

県内の特徴ある農産物を生産する農家に10名程度の農業体験希望者を派遣する事業。今年度は会員の農家民宿「森のふるさと」の森キヨ子さんが講師。6月の作付けから、8月の収穫・生葉染め、11月の乾燥葉染め、種の採取など加工・消費までの一連の過程を体験してもらった。

<営農支援事業> (詳細は別紙)

販売総額 227万円 (昨年度415万円)

収益 65万円 (昨年度64万円)

・規模の縮小傾向にあるが、消費者との顔が見えるマルシェや主催者との意向が合うイベントには積極的に参加。「浜通り応援隊」としてブースを設置し、藍染作品や菜種油、旬の野菜を販売した。(参加イベント：世田谷区民祭、あいづナチュラルフェスタ(湯川村)、Good Day Market(福島市)、仁井田の感謝祭(郡山市)、あいかわ百姓市(喜多方市)等)・また、習志野市の阿武松部屋(相撲部屋)への出荷は順調に推移した。